

■ NEC田んぼ10年の歩み

★2004年（再生前後の石岡市東田中の谷津田の様子）
約30年間、耕されることなく、人も立ち入らない湿地帯となっていました。



★2007年～Mission:Impossible「東田中に小屋を建てよ」～ 達人師範 Yさん
田んぼ事務局からの指令「2007は、達人で田んぼの広場に小屋を建てよ」でした。
2004年に田んぼが復興し、面積の拡張や支援者からいただいた貴重な道具類の保管、イベント時の着替えや休憩用に「小屋があったらなあ」と皆の期待が高まっていました。そうそう、視察対応の迎賓館の役割もあります。
小屋づくりは、約1年のプロジェクトXでした。真冬の悴む手での杉の皮むき、田起こし前の床張り、草取りの合間に壁板取り付け、秋の日のつるべ落としを気にしながらの底（ひさし）作りなど、この年は毎週のように通いました。
完成した小屋は、震災にも耐え、井戸や炊出し道具と共に役立ったと聞きました。少しは地元に恩返しできたでしょうか。僕たちの田んぼ秘密基地よ、ありがとう。

★2008年～田んぼアートに込めた想い～ OBのKさん
2008年5月、田んぼ作り5周年企画としてアサザ基金の飯島代表がデザインしたトキ（朱鷺）の原画を基に、黄色・黒紫色（古代米）、緑色（日本晴）の3種類の色の違う苗で、G田んぼに「田んぼアート（トキ）」を描きました。
田植えから50～60日後には、霞ヶ浦へ向かって元気よく羽ばたく、トキを浮かび上がらせました！
この田んぼアートを作るにあたり、半年前から企画検討し、100年後（もう89年後ですが！）のトキの野生復帰という目標を待ちきれず、一足早くNEC田んぼにトキを連れてきたいと、参加者やアサザ基金の皆さん、その他関係者全員の熱い想いが表れました。
トキの野生復帰には、時間がかかりますが、これからもトキが安心して生息しているよう、地道に自然環境を整備し、田んぼから流れ込む霞ヶ浦の水質浄化の一助になれば幸いです。



★2014年～「未来へ向けて」～ 事務局M
この10年、多くの皆様からご支援ご協力を頂き、感謝しております。ありがとうございました。トキが棲める環境作りを目指し、これからもNEC田んぼ作りプロジェクトを継続できるよう、努力してまいります！

★2006年～「根気と歓喜の井戸掘り」～ 達人師範 Iさん
2006年11月に井戸掘りを行いました。井戸掘り職人の指導の下、「上総掘り」（かずさぼり）という江戸時代から伝わる伝統技法で行いました。まずは、杉と竹を使って高さ7メートルの槽（やぐら）を建てます。次に、割り竹の先に着けた鉄管を使って掘り進め、溜まった泥を上げます。これを繰り返しますが、根気と体力を要する作業でした。
掘り進めること7日めで深さは18メートルに達し、やっと水が出ました！一同大喜び！以降、井戸水は調理、五右衛門風呂、流しそうめんに大活躍です。
また、2011年の東日本大震災時には断水した周辺の方々のお役に立ったそうです。



2012年
石岡市東田中地区より頂いた感謝状



★2011年～「人と生き物が、集い潤う、里山風景再生に思いを寄せて」～ 達人師範 Uさん
牛久上太田地区の田んぼ再生は、覆い尽くされた雑草を取り除く作業からでした。
背丈を超える葎（あし）やガマの密林を、鎌で刈り取り、地表に張り付くカササゲを、地面を剥ぎ取る思いでクワを入れ、地中深く張り巡らされた地下茎や根を、重い泥との格闘の末、除根して、やっとの思いで、田んぼらしい姿にしてゆきます。
そんな苦労を達人のみなさんと分かち合いながら、切り開いた谷津田の田んぼには、懐かしさと、心潤う時間の流れを感じさせてくれる里山の情景となりました。何よりも、広く、暖かい水辺に多くの生き物たちが帰ってくれました。
再生ははじまったばかりです、これからも人と生き物が集い潤う谷津田里山をめざし活動の糧としてゆきたいと思います。

★2012年～「NECネットエスアイ田んぼについて」～ NECネットエスアイ Kさん
始めてこのプロジェクトに参加したのは2007年の冬、「新酒蔵出し」でした。環境業務に携わってきた関係でずっと気になっていた活動です。参加してみると、活動のフィールドは非日常的な自然環境の中でとても楽しく、すぐに魅力にはまってしまいました。その後、この活動を独自活動として始めてはどうかと言う話をいただき、NECグループ会社としては第一号として、満を持して「ネットエスアイの田んぼ作りプロジェクト」が2012年にスタートしました。それまで活動に参加していた自社社員の協力もあり、年に5回のイベントを実施し、毎回30～40名程の人数で活動をしています。
最初に白菊酒造殿の酒蔵で搾りたてのお酒（ふなぐち）を味わい感激したことは今も忘れません。参加者の立場と事務局の立場ではかなり違いますが、参加者がこの活動を通して多くのことを感じ、楽しみ、喜んでいただけるような事務局運営をしていきたいと思います。

日本電気株式会社

〒108-8001 東京都港区芝五丁目7番1号
発行: 2014(平成26)年5月
お問合わせ先: コーポレートコミュニケーション部CSR・社会貢献室
E-mail: sco@csr.jp.nec.com
TEL: (03) 3798-9555



NEC田んぼ作りプロジェクト
withアサザ基金
2013年度活動報告



2013年度の活動概要

■活動の主旨と目的

NECグループでは、「人と地球にやさしい情報社会の実現」をグループビジョンに掲げ、その基盤作りのためにさまざまな活動に取り組んでいます。
NEC田んぼ作りプロジェクトは、環境意識啓発活動・生物多様性保全への取組、及び、社員参加型地域貢献活動「NEC Make-a-Difference Drive」の一環として、認定NPO法人アサザ基金との協働でNECグループ社員とその家族を対象に2004年度より実施しています。
稲作からお酒造りまでの一年を通じた自然体験参加型プログラムを提供することで参加者が直接自然に触れ、その素晴らしさを感じ、収穫の喜びを分かち合うことによって「モノ作り」の原点を実感していただくと共に、NECが有する「IT・ネットワーク技術」を活用して生態系観測や生物多様性保全に貢献する「生態系・生物多様性ソリューション」の開発・実証を目指しています。

■10年目の活動概要とこれからの期待

2013年度も2カ所のフィールド（茨城県石岡市及び牛久市の谷津田）、そして「愛酩(あいいてい)で笑呼(えこ)を醸造頂いている白菊酒造さんにおいて、合計7回(田植え、稲刈り、脱穀、酒仕込み神事など)のイベントと達人コース(28回)を実施し約990名(10年間の累計: 約11,000名)が参加しました。
石岡市の田んぼでは2012年度から田んぼ作り活動を開始したNECグループ会社(NECネットエスアイ)の協力により、委託生産での田んぼを増やし、2カ所のフィールドで約2トンのお米(日本晴)を収穫しました。
牛久の谷津田では再生を始めてからこれまでに、約23,000㎡のうち約6,500㎡を再生しました。再生面積が広がり里山のいたるところで日も差し込み、今まで確認されていなかった草花も芽吹くようになり、ホタルも最盛時期には190匹あまりを観察しました。また、定期的に行っている「トキの餌量調査」では調査開始時の2011年と比べて生きものの量は4.7倍になりました。NECグループでは、トキが棲める環境作りを目指して、これからも復田に加えて、ピオトープ作りや草地作りなどなど、トキの餌となる生きものたちが好む環境考えて、活動を続けていきます。
また今年度は環境省主催の「ESD KIDS FES!!!」において4歳と2歳の時から活動に参加していた、花菜さん(中1)と太郎くん(小5)姉弟に協力頂き発表を行ったほか、第1回グッドライフアワード審査員特別賞「企業と環境」特別賞を受賞することが出来ました。ご支援ご協力頂きました皆様に感謝いたします。

■ NECとアサザ基金の協働について

認定NPO法人・アサザ基金との協働は2003年度から始まり(NEC田んぼ作りプロジェクトは2004年度からスタート)、2014年度で11年目を迎えます。協働当初から最も大切にしてきたのはアサザ基金さんとの「イープンパートナーシップ」です。両者が独自にもっている専門分野のスキルやノウハウを互いに活かし、新しい社会的価値を創り出すことを強く意識してきました。霞ヶ浦流域の谷津田を再生し、「100年後にトキの野生復帰を」という当初からの目標を共有し続けたことで、当時の荒廃が想像もつかないくらい今では「NEC田んぼ」には命豊かな自然が蘇っています。

メッセージ

■ 認定NPO法人アサザ基金・飯島代表理事



NECの皆さんとの協働事業も10年になりました。これまで参加いただいた社員と家族の皆様に感謝するとともに、これまで皆さんと創り上げてきた成果を、未来に向けた取り組みへと活かしていけるよう決意を新たにしています。
牛久市上太田の谷津田で進めている霞ヶ浦水源地の再生事業は、対象の谷津田の総延長が約1kmと壮大な規模の取り組みとなっています。まさに、自然との共存を目指す実物大の社会モデルです。この地域の自然が再生できれば、目標としている朱鷺生息可能な空間が確保できます。夢は現実近づきつつあります。大規模な自然再生事業には、行政との連携も不可欠です。念願であった行政との協働も、私達の取り組みへの地元牛久市の理解が得られ、大きく前進しています。
NECの皆さんと再生に取り組んでいる谷津田の地形は、原宿など東京都内にも数多く残っています。この取り組みを、未来の環境都市つくりにも繋げていけるといいですね。頑張りましょう。

■ 白菊酒造・廣瀬専務



NEC田んぼプロジェクトも丸10年が経ちました。本当に素晴らしいことと思います。白菊酒造としてこのプロジェクトに参加できたことに誇りを感じています。
この活動は地域の方々だけでなく茨城県内に広く知られるようになり、出かけると田んぼ作りプロジェクトのことをよく聞かれるようになりました。これも活動を継続している成果だと思います。この10年を酒造りで振り返ると最初は無農薬・無肥料のお米で麹作りや酒母作りに翻弄されながらの酒造りでした。
またその年の気候の変動で良いときもあれば難しいときもありましたが、なんとしてでもNECの社員と家族により良いお酒を届けることだけを考え酒造りに励みました。白菊酒造は11年目も皆さまと共に歩んでまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 地元支援者・矢野さん



今年も田植え後日照不足と、夏から秋の異常な高温と小雨に悩まされました。谷津田の湧水が結局頼みの綱です。それでも米を収穫することができました。秋の猛暑は米の質を硬くしてしまいますので、白菊酒造さんには大変なご苦労をかけてしまいました。2013年度まで10回の収穫を、農薬と化学肥料を使わずに行うことができました。病害は一度もなく、あとはカメムシ類とアメリカザリガニの害くらいです。生物としての稲の力と、湧水と豊かな生態系を糧やかに守ってくれる谷津田と森に感謝です。そして北ノ入田んぼを支えていただいた皆さまに感謝いたします。

NEC田んぼの四季（石岡市東田中地区、牛久市上太田地区）

達人さんの活躍

春

5月5日。竜ヶ崎市の横田農場さんで日本晴の種蒔きを行いました。
無農薬無化学肥料で育てるために、種籾自身も無農薬栽培で育てられたものを特別に購入しています。
15cmほどの大きさになるまで横田農場さんで大切に育てて頂きます。



『御田植祭(東田中)』

5月25日。すばらしい晴天。少し気温が高いものの風も爽やかでまさに田植え日和。
東田中の田んぼでは10周年を記念し、香取神社宮司さんによる「御田植祭」を行いました。
神を降ろし、祓い浄められた田んぼで今年も田植えを行いました。

『田植え(東田中)』

田んぼには田定規を使って丁寧に線を引きマス目をつけます。そして十字に印の付いたところへ、苗を植え付けていきます。田植えが終わると「どの田んぼがキレイかな？」コンテストが始まります！今年は何の田んぼが高得点かな？！



冬

1月18日。白菊酒造さんにて、香取神社宮司さんによる、酒仕込みの神事が執り行われました。
この日は廣瀬専務の案内による蔵見学が行われ、伝統的な酒造りについてのお話を伺いました。
そして参加者の皆さんのお目当てはもう1つあります！それは、利き酒です。蔵の中でしか飲むことができない貴重な原酒などを試飲させていただきました。

『ラベル貼り(白菊酒造)』



3月8日。いよいよ新酒が出来上がりました。参加者の方々が丁寧にラベルを貼り、製品の完成です。今年のラベルには10周年のロゴが入っています。



あいこ えこ
お酒の名前「愛町で笑呼」は、“お酒”で“酔い”を楽しみ、みんなに“笑顔(幸せ)”を呼び込みたいという思いを込め、NECの環境コンセプトである「IT、で、エコ」にちなんで命名しました。

夏

6月22日。一の草（田植え後初めての草取り）の様子です。竹ぼうきを分解して作った新兵器！その名も「竹ぼうき除草機」。コナギなどの水草が小さいうちは効果が期待出来そうです！



『竹ぼうき除草機で除草する達人』



『草取り(上太田)』

参加者の方からは「思いつき泥に汚れ、実体験することで、より田んぼ作りの大変さ、自然の大切さを直に感じることができました。」とのコメントを頂きました。

『灯ろうを作る達人』

夜のホタル観察の際、懐中電灯の光では生きものに強すぎるので、達人たちが竹を切り出して「灯ろう」を作りました。光を反射させる凝った作りでした。



秋

9月14日。上太田の田んぼに新しいオダの保管場所を達人の皆さんが作ってくれました。しっかりとしたオダ棚ができました。

『オダ棚を設置する達人』



『稲刈り(東田中)』

10月12日。好天に恵まれ収穫日和となったこの日、東田中の田んぼには総勢120名が集まり、稲刈りを行いました。今年も立派な稲穂を収穫することができました。

また、恒例となった、青屋囃子(茨城県無形文化財指定)の皆さんによる、獅子舞を地元の方や参加者の皆さんとともに楽しみました。

〔2013年度収穫量〕

東田中地区、上太田地区合わせて約2トン

11月9日。上太田の田んぼで脱穀を行いました。約80名が集まり、昭和初期に使われていた農機具(ガーコン、唐蓑など)を使って作業を行いました。



『脱穀(上太田)』

達人コースは、田植え・稲刈りなどの合い間の稲作に必要な作業や田んぼ周辺の整備などを自主的に楽しみたいという皆さんに参加いただいているプログラムです。現在90組165名の方々が登録しており、参加回数や習得技術によって、「達人」→「達人師範代」→「達人師範」へと昇格する制度になっています。



(←)『水路の整備』
[上太田地区]
水路や土管にたまった土砂を取り除く作業を行い、田んぼへわたる橋を架けて頂きました。



(←)『堆肥作り』
[東田中地区]
収穫した後のワラを使って、翌年使う堆肥も達人さんが作ります。お米を精米したときに出る糠と混ぜて発酵させることで、有機肥料ができていきます。



(←)『達人田んぼ』
[上太田地区]
この田んぼでは達人さんが餅米を育てています。収穫した餅米は10周年の記念に霞ヶ浦のエビを入れた“「愛町で笑呼」せんべい”になりました！



『丸太の遊歩道』(→)
[上太田地区]
広場を拡張し、切り出した丸太を活用して、かも池周辺に散策路を作って頂きました。



NEC田んぼ(上太田地区)での生きものの調査

上太田地区の谷津田を再生するにあたり、復田前後での生きものの変化を確認するため、2010年度の休耕田の状態から毎月継続的に生きもの調査を行っています。再生4年目の谷津田では様々な生きものの種類や数が増えてきていますが、中でもトンボの生息数では変化が顕著に現れています。

■ シオカラトンボ

若い個体はカサスゲなどの草原で生活し、開けた水面で産卵します。広い水面を好む「シオカラトンボ」が増加したのは、中干しない生きものに配慮した米づくりを行っているためであると考えられます。

2010年	2011年	2012年	2013年
2匹	42匹	115匹	195匹



■ オオシオカラトンボ

下草刈りが行われ林床に光が届く森の林縁で生活し、開けた水面で産卵する「オオシオカラトンボ」が2012年度から観察されるようになり増加しています。定期的に林の手入れを行っている効果が出ていると考えられます。



2010年	2011年	2012年	2013年
0匹	0匹	6匹	18匹

資料協力：認定NPO法人アサザ基金

参加者からのメッセージ

【NEC田んぼでの一番の思い出】

・ビルの中での昆虫、爬虫類は苦手な生き物なのに田んぼの中に入ると美しい生き物に見えました。(2008～2009年参加)
・上太田地区の荒野(笑)を開拓して今や立派な田んぼになっていることに感動を覚えています。「自分が拓いた土地だ！」と強い愛着を覚えて田んぼプロジェクトに参加しています。(2011年,2013年度～参加)
・子供に米作りの体験をさせてあげたいという気持ちがもちろん強かったのですが、なんといっても自分にとっても初めての体験で、植えた苗がすすく育ち収穫に至った過程に立ち会うことができ、純粋に感動しています。(2013年度～参加)
・当初から一緒に参加していた息子(当時15歳、障害有り)が彼なりに田植えから脱穀まで何とかお手伝いができるようになった事。またその息子と出来上がったお酒と一緒に飲めた事。(2004年度～参加)

【10周年に寄せるメッセージ】

・NECに入社して、荒廃した谷津田を開拓、田んぼを再生、そのお米でお酒を造ることができるなんて想像もしていませんでした。年間通して参加はできなかったのですが、数年かけてすべてのプログラムに参加できました。10年間活動を支えたすべての人にありがとうという感謝の気持ちを贈りたいと思います。(2004～現在)
・田んぼでいろいろな人や自然や生き物と一緒に過ごした時間は、7年たった今でも私の宝物です。中学高校と部活で忙しく参加できませんが、大学生になったらきっとボランティアとして参加します！ 谷津田にトキが戻ってきますように！(2004～2009,2012年度参加社員の娘さん)
・人と人をつなぎ、人と自然をつなぎ、さらに100年後のすばらしい未来につながる田んぼプロジェクトをこれからもよろしくお願いします。(2006年度～現在)
・佐渡でのトキの放鳥も順調に進んでいます。NEC田んぼも、トキにも優しい餌場の環境になってきています。トキもNECグループの社員と家族も集う、そんな素敵な環境をこれからも一緒に作っていきましょう♪(2004年度～現在)

■ トキの餌量調査



トキ1羽が年間に食べる餌量は約75kgとされています。トキが暮らせる谷津田を目指し、復田した田んぼで定期的にトキの餌量調査を行っています。

2013年度の調査では、復田面積3200㎡に対して3.9g/㎡の餌量でした。達成率は17%となります。復田を始めた2011年度の達成率3.6%と比べるとトキの餌量は確実に増えています！

気象観測装置（ウェザーバケットの紹介）



NEC田んぼでは周辺の環境変化をモニタリングするために太陽電池で駆動するセンサーを設置し、温度や水温など7種類のデータを10分単位に測定しています。
本製品は、NEC－NETグループの(株)エスイーシーの製品です。製品の詳細については、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.hotweb.or.jp/bucket/>